

鳥類

表 4-2-6 計画区域及び周辺地域で出現した重要種

種名	選定理由	生息状況
カワセミ	環主	周年生息、計画区域で巣穴を確認
オシドリ	少ない	計画区域等の山間部の溜池で確認、冬鳥として渡来
ハイタカ	少ない	山林に渡来、現地調査では冬季に確認
ノスリ	少ない 食連	秋季や冬季に山林や平地に生息、現地調査では夏季に山間部で確認
チョウゲンボウ	少ない 食連	大阪府下では比較的少ない、現地調査では1月に山間で確認
カッコウ	少ない	山間部に生息、現地調査では5月下旬に確認
フクロウ	少ない 食連	低山地に周年生息、山間部で飛翔個体を確認
アカゲラ	少ない	山間部で確認
サンコウチョウ	少ない	箕面等の低山地に夏鳥として渡来、山間部で確認
クロジ	少ない	冬鳥として渡来、1、2月に確認
エゾムシクイ	少ない	旅鳥、渡りの時期に山林や市街地の公園などに渡来
キビタキ	少ない	旅鳥として渡来、9月に確認

(注) 「環主」：環境庁「第1回自然環境保全調査」(昭和51年)に選定されている主要野生動物
 「少ない」：日本野鳥の会「大阪府鳥類目録」(1987)のうち「少ない」の記載のある種
 「食連」：環境庁「環境影響評価に係る技術的事項について(案)」(昭和54年)において環境庁が基準を示す「貴重種その他重要種」の食物連鎖上位種

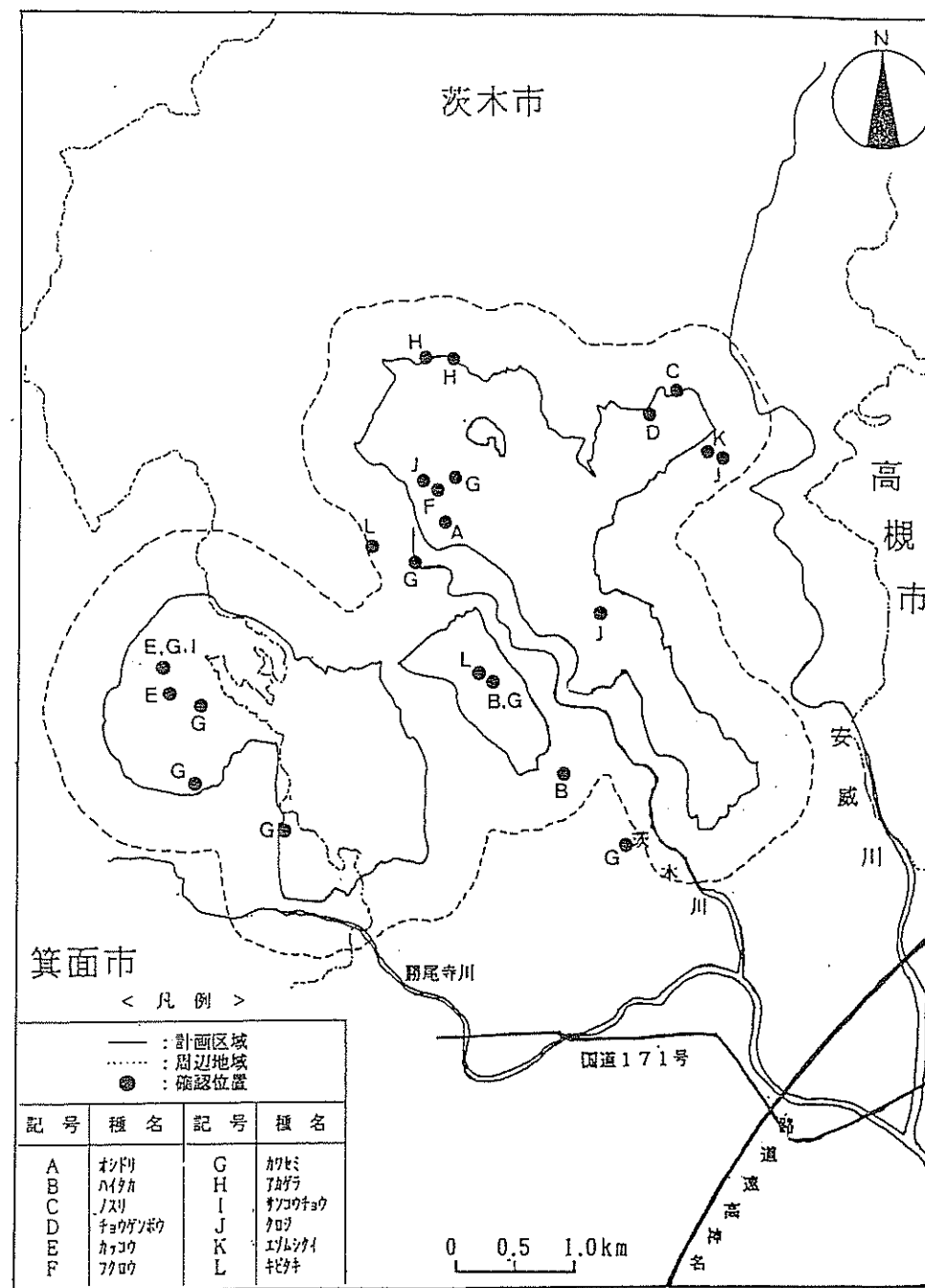


図 4-2-2 計画区域及び周辺地域の鳥類に係る重要種の確認位置

両生・は虫類

表 4-2-9 両生・は虫類に係る重要種の選定基準

- ・文化財保護法による天然記念物
- ・環境庁「第1回自然環境保全調査」（昭和51年）に選定されている主要野生動物（両生・は虫類5種1類）
- ・環境庁「第2回自然環境保全基礎調査」（昭和56年）大阪府動植物分布図に選定されている生息種及び生息種群（大阪府内に8種、茨木市内に4種）

表 4-2-10 計画区域及び周辺地域で出現した重要種

種名	選定理由	生息状況
モリアオガエル	環主	計画区域内で卵塊を確認
カジカガエル	環主	渓流域に生息し、安威川で確認

(注)「環主」：環境庁「第1回自然環境保全調査」（昭和51年）に選定されている主要野生動物

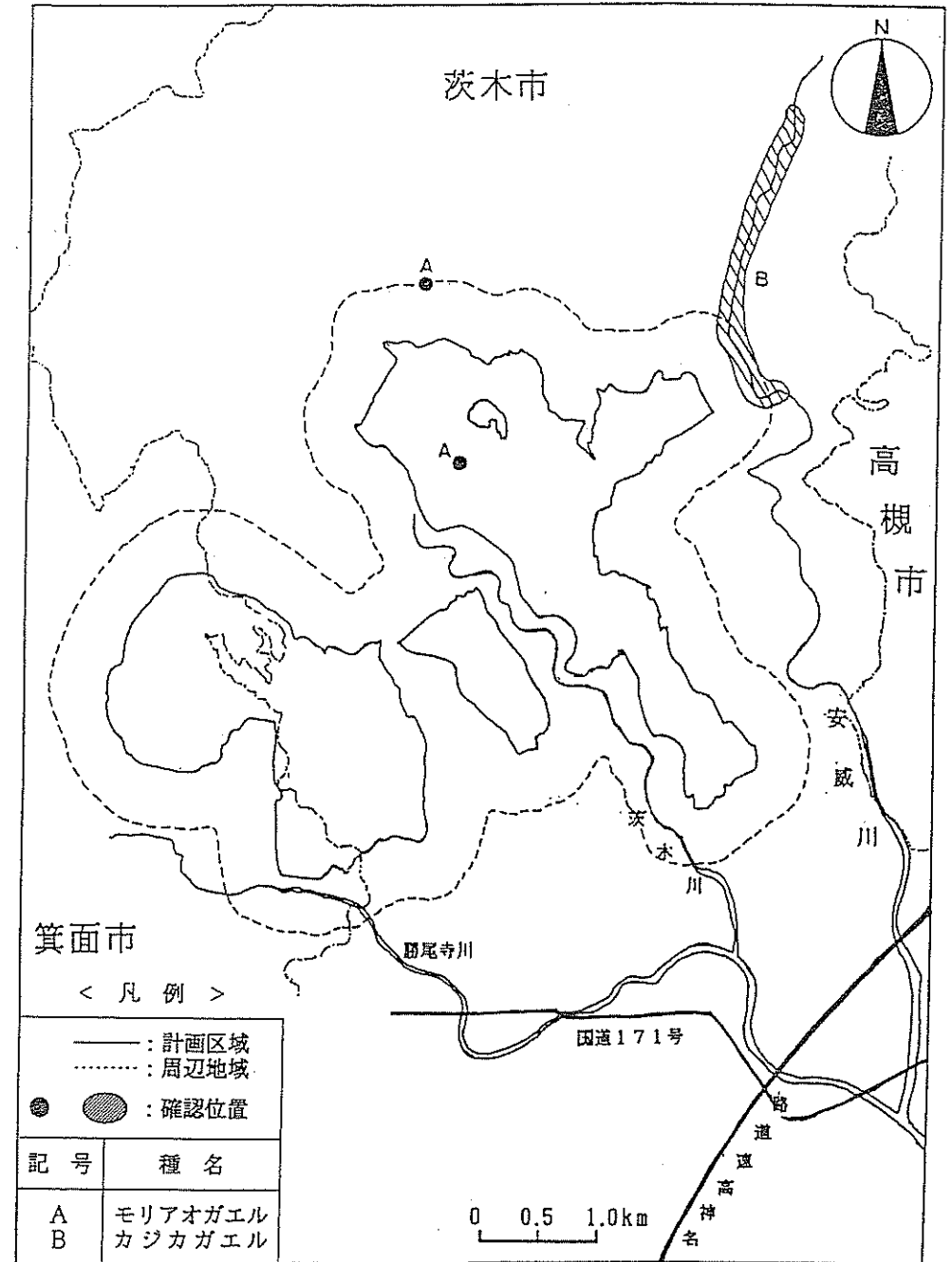


図 4-2-3 計画区域及び周辺地域の両生・は虫類に係る重要種の確認位置

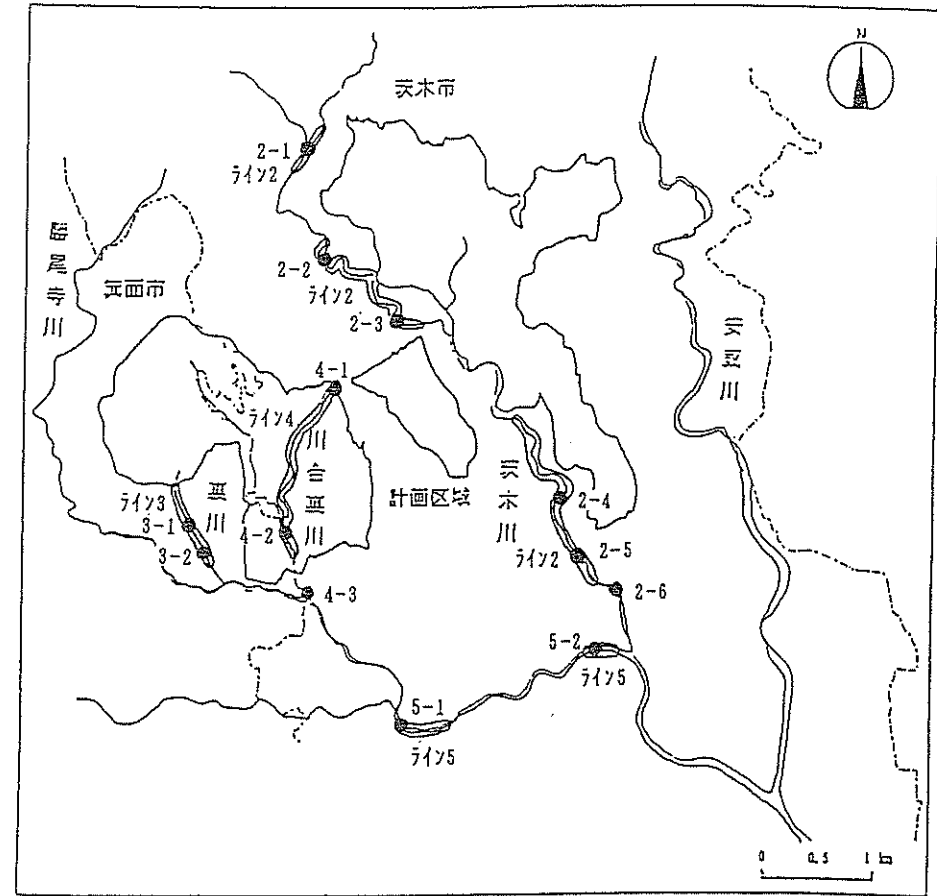
魚類

資料-水生3

都市計画部局提供資料

表1-3 調査地点一覧(河川)

番号	河川名	調査項目		
		魚類	底生動物 (定量)	底生動物 (定性)
2-1	茨木川	○	○	
2-2	茨木川	○		
2-3	茨木川	○		
2-4	茨木川	○		
2-5	茨木川		○	
2-6	茨木川	○		
3-1	裏川	○		
3-2	裏川		○	
4-1	川合裏川		○	
4-2	川合裏川	○		
4-3	川合裏川	○	○	
5-1	勝尾寺川	○		
5-2	勝尾寺川	○		



河川現況調査地点

植物

準備書（案）参考資料の概要

イ 計画区域及び周辺地域における重要種

現地調査確認種のうちから、計画区域及び計画区域から概ね500m以内の周辺地域で生育する植物について、表2-1-2の選定基準による重要種の選定を行った結果、「文化財保護法」に基づく天然記念物に指定されたものはなかったが、表2-1-3に示す重要種が11種確認された。これらの分布状況は、図2-1-1に示すとおりである。

表 2-1-2 植物に係る重要種の選定基準

- ・文化財保護法による天然記念物
- ・環境庁「第1回自然環境保全調査」（昭和51年）に選定された貴重植物「近畿地方 103種」
- ・近畿圏保全区域等整備計画策定に関する調査会「近畿圏保全区域等整備計画策定に関する調査報告書」（昭和47年）による「府下に少ない植物または分布上注意すべき種（48種）」
- ・堀「大阪府植物誌」（昭和37年）の「稀」な植物（654種）

表 2-1-3 計画区域及び周辺地域の重要種

	科	種	選定理由	生育状況
ツバキ科	ツバキ	ツバキ	植稀	河川敷の堆砂地、湿潤な斜面に小群落が少数分布
種子植物	バラ	ユキヤナギ	近保・植稀	河川敷の基岩露出地に分布
		アハノバラ	植稀	耕作地近くの低木地や草地等
	ツツジ	アケボノ	植稀	アカマツ林内に生育し、尾根筋に分布
	イチヤクソウ	ギンリョウソウ	植稀	腐蝕土の発達した広葉樹林内
	ユリ	オモト	植稀	社森林内等に少数分布
		ナガバネユリ	植稀	潤湿な林内に分布
	アリトウグサ	アサギ	植稀	溜池等に少数分布
	ツバキ	モッコク	植稀	社森林の周辺に少数分布
ヤブコウジ	マンリョウ	植稀	社森林の周辺に少数分布	
クスノキ	クスノキ	植稀	安威川流域に少数分布	

(注) 近保：近畿圏保全区域等整備計画策定に関する調査会「近畿圏保全区域等整備計画策定に関する調査報告書」（昭和47年）による「府下に少ない植物または分布上注意すべき種（48種）」
植稀：堀「大阪府植物誌」（昭和37年）の「稀」な植物（654種）

検討結果

イ 計画区域及び周辺地域における重要種

準備書（案）参考資料では、現地調査確認種のうちから、計画区域及び計画区域から概ね500m以内の周辺地域で生育する植物について、表2-1-2の選定基準による重要種の選定を行った結果、「文化財保護法」に基づく天然記念物に指定されたものはなかったが、表2-1-3に示す重要種が11種確認されたと記載されている。

計画区域から概ね500m以内を周辺地域としたことについて、都市計画部局は、「一般に大気汚染の影響範囲として500m位をみれば、それ以遠に影響は及ばないと考えている。」としており、通常、設定されている範囲である。

植物に係る重要種の選定基準について、都市計画部局は、「計画区域が740haと、緑の少ない大阪府域においては大規模な開発となることから、既存の資料において、大阪府下で生育が限定され、開発により生育数が減少しているような種については重要種とした。」としている。

現地調査確認種のうちから重要種が選定されているが、「文化財保護法」による天然記念物、環境庁「第1回自然環境保全調査」（昭和51年）に選定された貴重植物「近畿地方 103種」、近畿圏保全区域等整備計画策定に関する調査会「近畿圏保全区域等整備計画策定に関する調査報告書」（昭和47年）による「府下に少ない植物または分布上注意すべき種（48種）」及び堀「大阪府植物誌」（昭和37年）の「稀」な植物（654種）を基準に選定しており、大阪府域における実状も考慮されていることから、その選定方法は概ね妥当なものと考えられる。

なお、11種の重要種について、全国的な分布域、生育地の特殊性、府県レベルでの個体数、当該産地の分布の限界性及び最近の数量の動向等を考慮して、詳細に重要度について検討を行った結果は以下のとおりである。

フサモ：重要種である。従来フサモはオグラノフサモと混同され、オグラノフサモが貴重であるとされ、レッドデータブックにも載せられているが最近の研究では、近畿地方ではむしろフサモのほうが珍しく、オグラノフサモのほうが多いということがわかってきている。

ユキヤナギ、タブノキ：ユキヤナギは溪谷の岩壁に依存的な種類として、タブノキは瀬戸内近畿ではほとんど分布を欠く種類として重要種である。

クサソテツ、ギンリョウソウ、オモト：クサソテツは大阪では分布地点が少なく、ギンリョウソウ、オモトは比較的によく発達した森林の林床の種で1カ所当たりの分布量が少ないという点で、ユキヤナギ、タブノキに次ぐ重要な種である。

モッコク、マンリョウ：いずれも本来の自生と考えられるようなら、大阪北部では注目に値する。しかし、これらは植栽起源のものとの区別がつきにくく、とくに最近では都市のまわりを中心に、鳥によって種子が運ばれて芽生

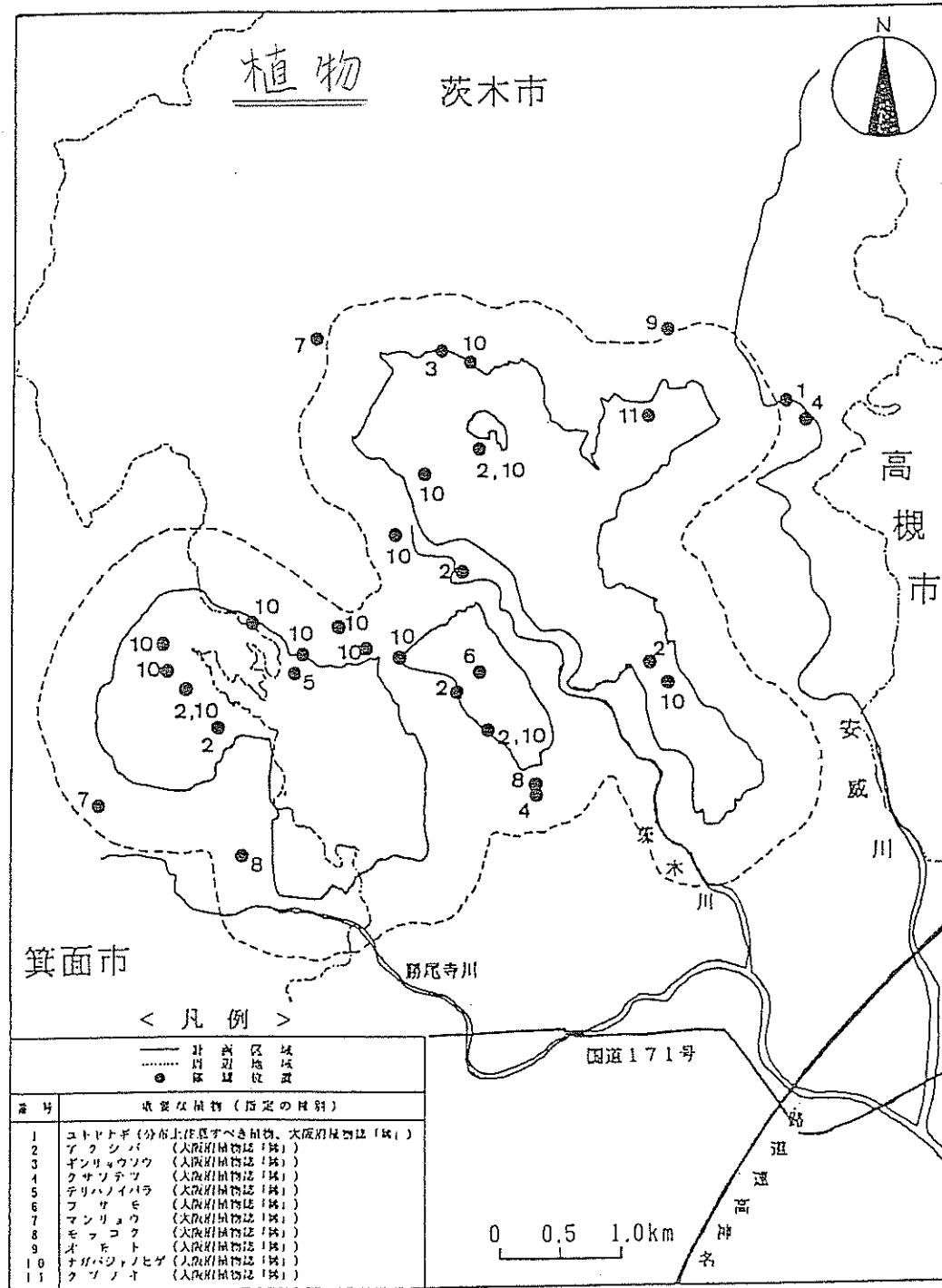


図 2-1-1 計画区域及び周辺地域における重要な植物の分布

えたと考えられる個体が多くみられる。二次的な分布と考えるのが一般的である。

テリハノイバラ、アキシバ、ナガバジャノヒゲ：移植等の保全対策の対象としては、その優先度は低いものと考えられる。

また、都市計画部局から提供された植物リストをもとに、重要種の選定について検討を行った結果は以下のとおりである。

ギンバイソウ(ユキノシタ科)、イスノキ(マンサク科)、ニシキギ(ニシキギ科)、オオバギボウシ(ユリ科)の4種は、現地調査で確認されており、堀「大阪府植物誌」(昭和37年)に「稀」な植物として記載されているが、計画区域及び計画区域から概ね500m以内の周辺地域では確認されていないことから、重要種としてとりあげなかったものと考えられる。

マルバウツギ(ユキノシタ科)は、現地調査で計画区域内に確認されており、堀「大阪府植物誌」では「普通」な種となっているが、府下では大和川以南にしか確認されていないと記載されており、近畿圏保全区域等整備計画策定に関する調査会「近畿圏保全区域等整備計画策定に関する調査報告書」(昭和47年)では、府下では南の方に多く北の方に少ない植物として記載されている。

ギンバイソウとマルバウツギの2種については、全国的な分布域、生育地の特殊性、府県レベルでの個体数、当該産地の分布の限界性及び最近の数量の動向等を考慮して、重要度について検討を行った結果、植物地理学的には注目される分布状況であると考えられる。

ギンバイソウ：大阪府下では南部山地でしか確認されておらず、大阪の北部で確認されたのは初めてであり、植物地理学的には注目される分布地点である。

マルバウツギ：大阪府下では大和川以南にしか確認されておらず、大阪府下での北限となり、植物地理学的には注目される分布地点である。

なお、堀「大阪府植物誌」(昭和37年)の増補改訂版である桑島「大阪府植物目録」(1990年)の「稀」な植物を選定基準として、都市計画部局から提供された植物リストをもとに重要種の選定を行ったところ、準備書(案)参考資料に記載の11種に追加して、サケバヒヨドリ(キク科)、ビワ(バラ科)、ヤマグワ(クワ科)、オノエヤナギ(ヤナギ科)、アワガエリ(イネ科)の5種が選定された。

以上のことから、造成工事に際しては、準備書(案)参考資料に記載の重要種以外の種についても、その存在の有無に注意しながら工事を実施し、重要であると判断される種の生育が確認された場合には、その保全に努めることが必要であると考えられる。

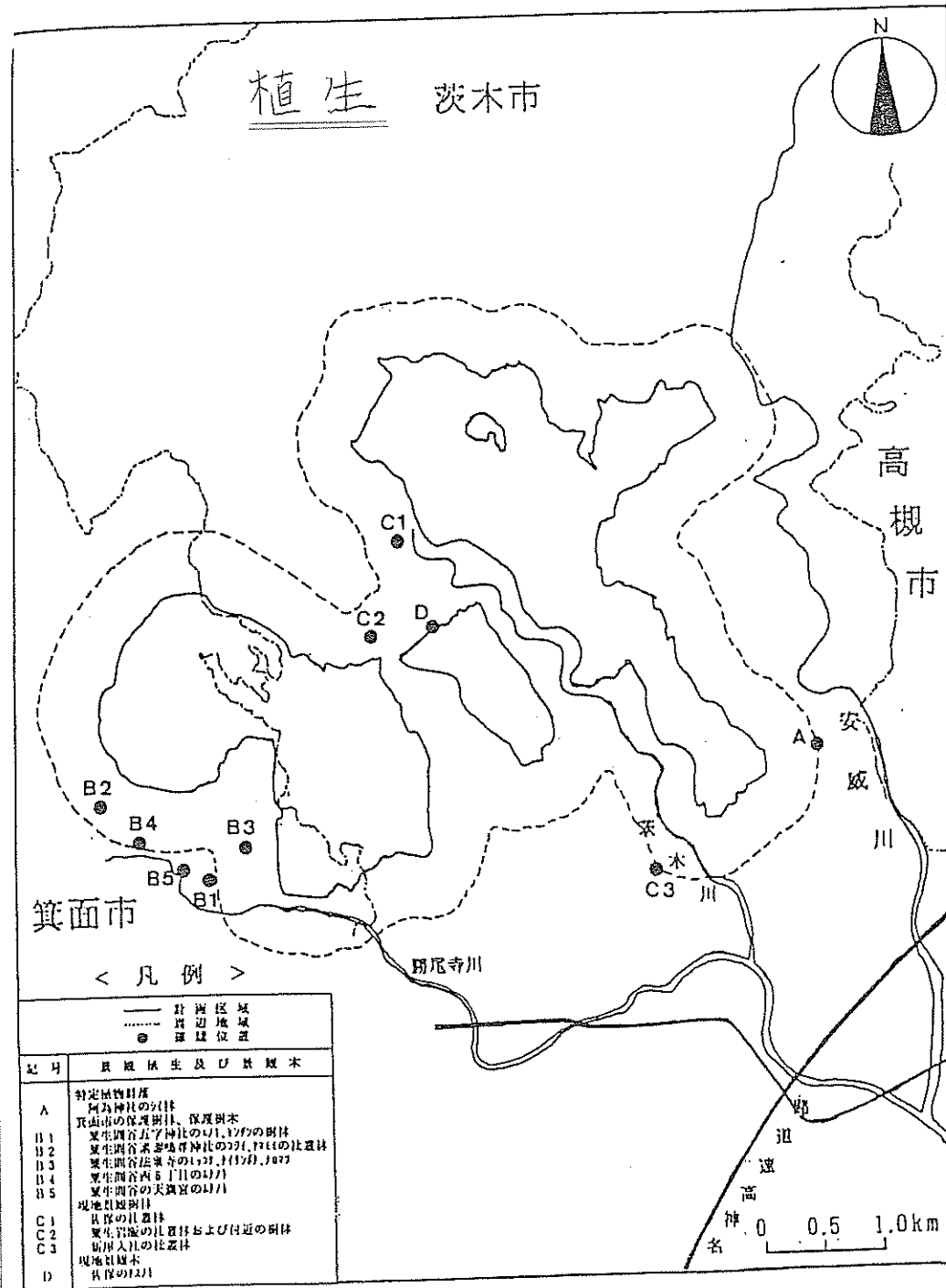


図 2-1-3 計画区域及び周辺地域における重要な景観植生の位置

* 植生

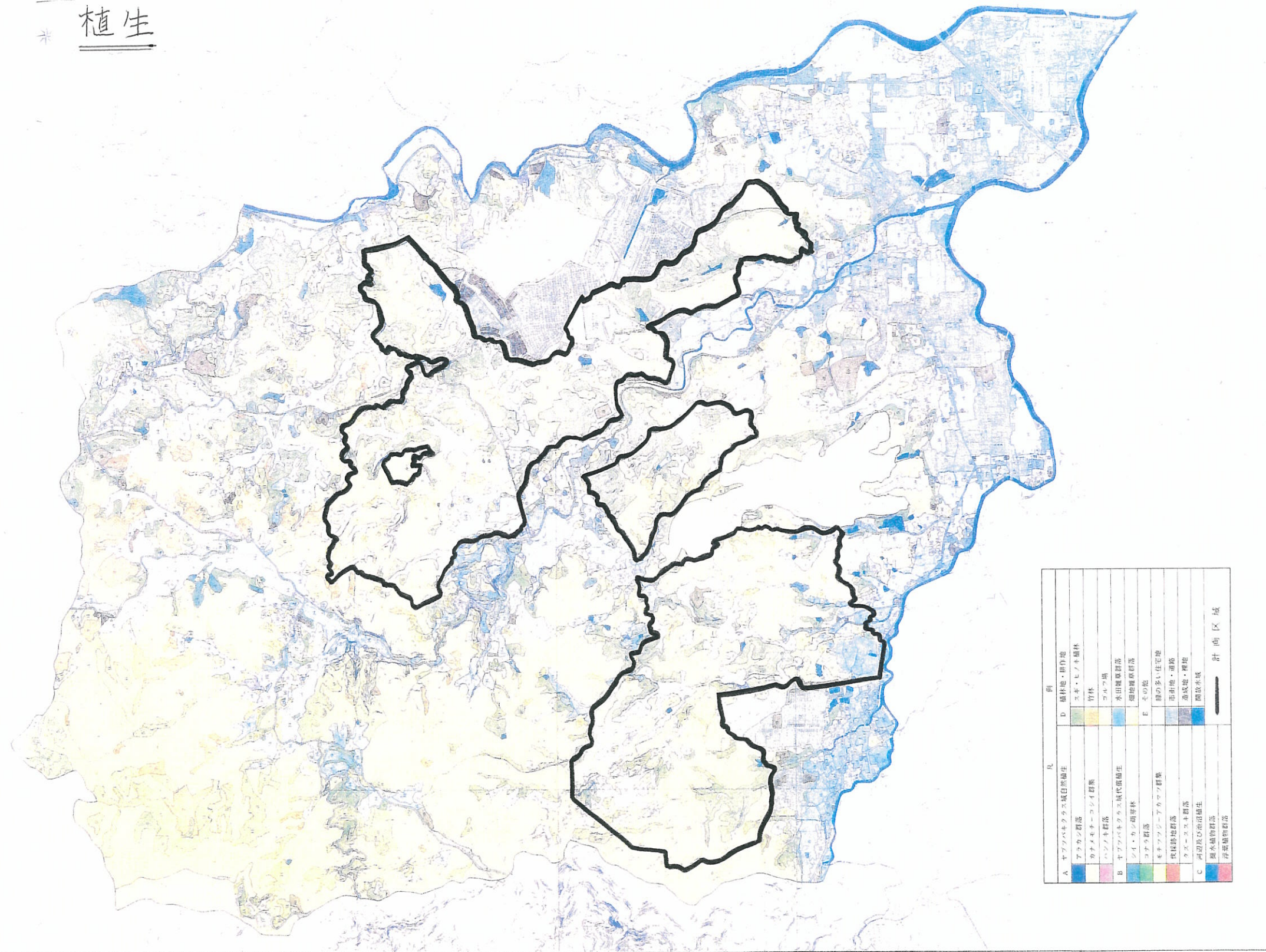
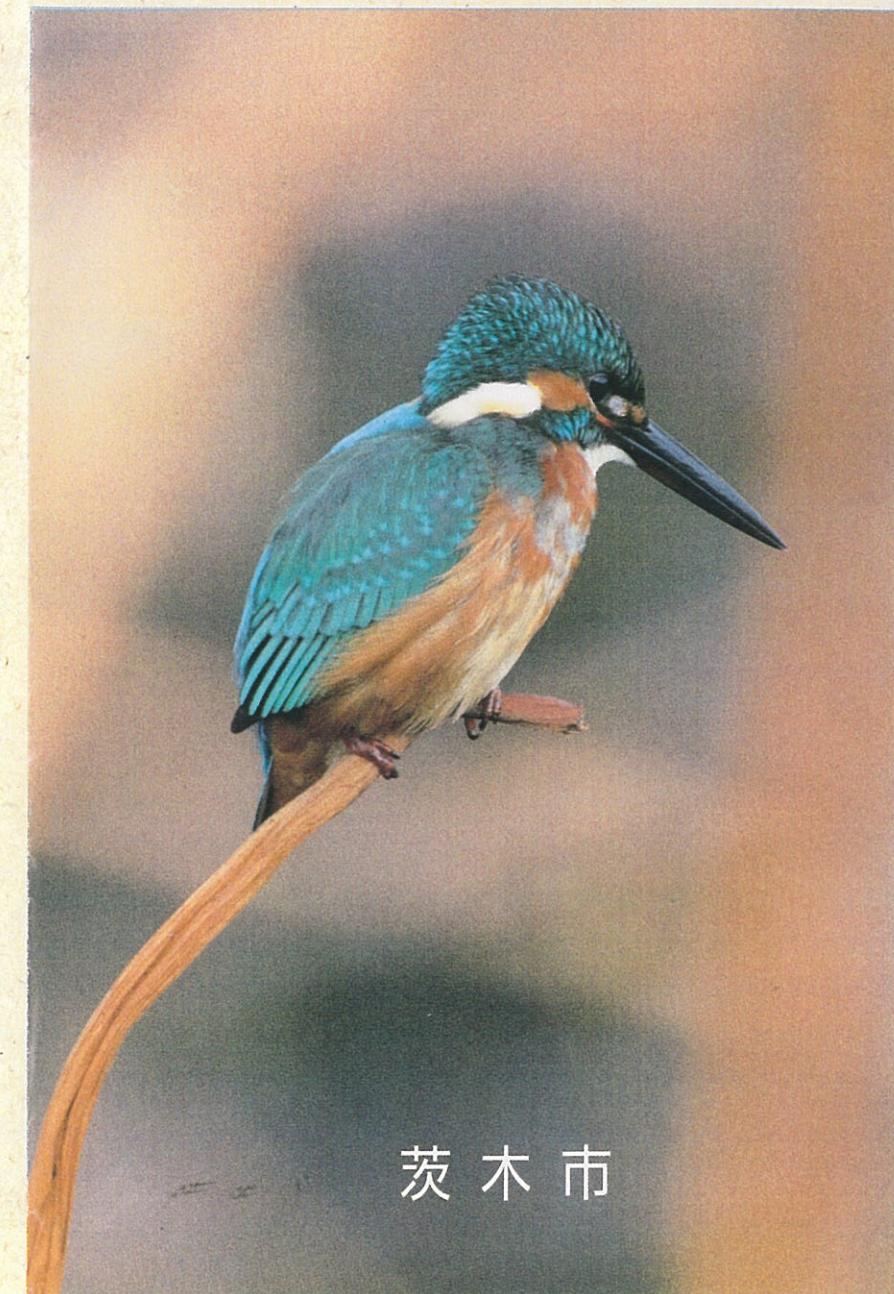


図 2-1-2 現地調査による現存植生図



茨木の野鳥

〔鳥類生息実態調査から〕



茨木市

調査の結果

このたびの鳥類調査は、野鳥たちが子育てに専念している春～初夏と、じっと寒さに耐えている冬の期間に実施されました。

■市内で見つかった野鳥は……

夏と冬の限られた期間中の調査でしたが、全部で105種もの野鳥が記録されました。大阪府で戦後記録された野鳥(298種)の約35%にあたります。府下の記録は、たった1回しか見られていない種や、海岸でないと見られない種を含んでの種数ですから、茨木市だけで105種というのは、予想を超える種数と言えるでしょう。

■いつの時期に見られましたか……

春から初夏にかけては66種、冬の間には81種が見られました。冬の方が種数が多いのは、府下の一般的な傾向です。冬は、自分1羽のための餌と安全があれば暮らせますが、子育ての時期は、それらに加えてヒナのための餌と家族全体の安全が必要です。律令時代以前から、くりかえし人間の手が加わってきた北摂の自然の中で子育てできる野鳥は、残念ながら60種程度なのです。

■どこに、どんな野鳥がいましたか……

南は安威川から北は北摂山系まで、市内のほとんど全域で見られた野鳥は、キジバト、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラスなどです。生活場所の選り好みが少ないか、市内のどこにもある環境で暮らせるタフな野鳥たちです。

北摂の山間部だけで多く見られたのは、コゲラ、キセキレイ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、イカル、ホオジロなどです。この種の中には、冬になると市街地の庭先に現れるものもあります。

これとは反対に、平野部だけで多く見られたのは、ケリ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリなど、水田や安威川のヨシ原に好んですんでいる野鳥たちです。

■特筆すべき野鳥はありましたか……

府下全域で減少傾向が憂えられている猛禽類(オオタカ、ハイタカ、サシバ、アオバズク、フクロウ)が、ごく少数ですが記録されました。また、府下では箕面や金剛山などに、局地的に生息する、ヤマセミ、オオアカゲラ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウも観察されています。これらの希少な野鳥の存在は、その野鳥を支える奥深い豊かな自然のあることを示しています。それを次の世代に伝えるのは、私たちの役割ではないでしょうか……?

●茨木の野鳥

鳥類生息実態調査から



昭和63年3月発行

発行 茨木市土木部公園緑地課
〒567 茨木市駅前3丁目8-13
Tel 0726-22-8121(代)
制作 (財)日本野鳥の会
写真提供 (財)日本野鳥の会大阪支部

市街地では……

ヒヨドリ

全身まだらもようの灰色です。「ヒーヨ・ヒーヨ」とうるさく鳴きます。
〔一年中いる〕



ツバメ

黒い背中、赤茶色ののど、白いおなか。飛ぶことにかけては名人。
〔夏だけいる〕

安威川ぞいでは……

セグロセキレイ

白と黒のコントラストが美しい、スマートな鳥。尾を上下にふりまわす。
〔一年中いる〕



オオヨシキリ

ヨシ原に好んですみ、「ギョギョシ・ギョギョシ」と大声で鳴きます。
〔夏だけいる〕

ユリカモメ

オレンジ色のくちばしと足がよくめだつ、小柄なカモメです。
〔冬だけいる〕



いばらき市 バードウォッチングマップ

by OnTad

